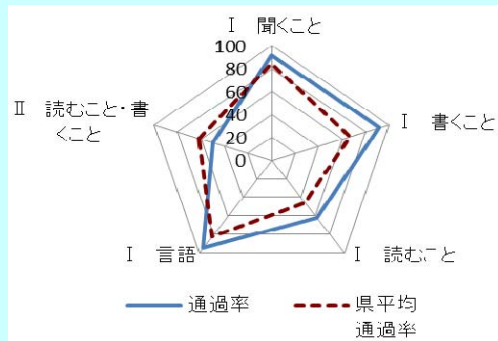
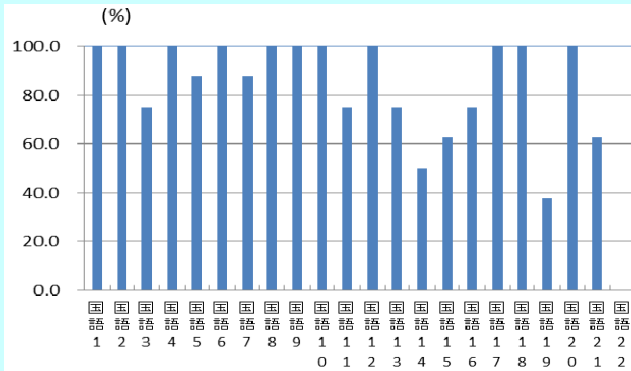


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 81.3%, 県 71.8%)

領域別平均通過率



各学年別通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

国語の結果において、タイプⅠは 88.2%、タイプⅡは 50%の通過率だった。この結果から、特に「聞くこと」や「書くこと」、「言語に関する知識・理解・技能」において、基礎的・基本的な内容についてはおおむね定着が図られていると考えられ、昨年度からの指導改善が活かされていることがわかる。その一方で、タイプⅡの「読むこと・書くこと」の活用力においては、他の領域に比べ、課題が大きい。

重点課題

【課題1】「読むこと」段落相互の関係の把握

・文と文の意味のつながりや段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと (通過率 50%)

【課題2】「読むこと・書くこと」理由を挙げた記述 (通過率 0%)

・「その理由は、」に続くように書くことができていない児童 50%  
 ・想像できることや思ったことを具体的に書くことができていない児童 87.5%  
 以上のように、条件をすべて満たして記述することに課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

・文章の中心や段落相互の関係を読み取らせるために、接続語やキーワードに着目させたり、文章の枠組みを読み取らせたりする学習を継続する。

【課題2】

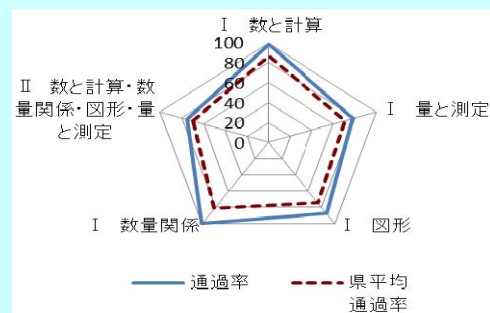
・主語と述語の関係を意識して文章を正しく書かせるために、国語の授業だけでなく、他の教科、日記や作文学習においても繰り返し指導を行う。  
 ・読み取ったことを条件に合わせて書かせたり、自分の生活と結びつけて考えさせたりする学習を継続する。その際、具体的にはどのようなことなのか児童に問いかけ、理由や事例をつけてより明確に書くことの指導を行う。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	【全校】 検定テスト		【5年】 学力向上検定テスト	単元末テスト	標準学力テスト	【4年】 H26年「基礎・基本」	単元末テスト
目標値	80.0%		80.0%	80.0%	75.0%	70.0%	75.0%
実施後数値							

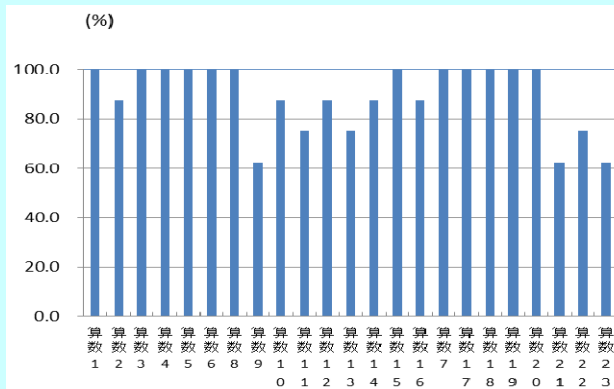
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	【全校】 検定テスト		【5年】 学力向上検定テスト	単元末テスト	標準学力テスト	【4年】 H26年「基礎・基本」	単元末テスト
目標値	80.0%		80.0%	80.0%	75.0%	70.0%	75.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 89.1%, 県 78.0%)

領域別平均通過率



本年度通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

算数の結果において、タイプⅠは 92.1%、タイプⅡは 75%の通過率だった。この結果から、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられる。一方、数学的な考え方に課題が見られ、示された問題を思考し、言葉や式等を用いて記述することに課題が見られる。

重点課題

- 【課題1】「図形・量と測定」 自分の考えや解決方法を筋道立てて説明  
・示された長方形の板にカードを敷き詰めることができないと判断するための方法を考え、それを言葉や式を用いて記述すること (通過率 62.5%)
- 【課題2】「数と計算・数量関係」 解決方法の解釈と適用  
・規則性を読み取ることはできているが、示された解決方法を理解する数学的な考え方 (通過率 62.5%)
- 【課題1・2共通】 ・何を問われているかを読み取る力

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

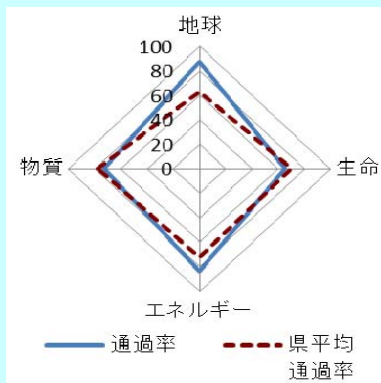
- 【課題1】  
・「量と測定」の単元については、計画的に復習し、体験したことや学習したことを忘れずに定着を図る。また、公式を導くまでの過程を重点的に指導し、図にかいたり算数的用語を使って表したりする学習に繰り返し取り組む。さらに、問題解決に必要な情報を取捨選択させる授業を仕組み、思考力を身につけさせる。
- 【課題2】  
・最後まで問題を読み取って解決できていない児童には、順序立てて解決する方法を提示し、繰り返し解かせる。また、思考力を育成するために、授業の中で、必ず思考場面を仕組んだり、自分の考えを説明する時間を確保したりする。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	【全校】 算数検定テスト		【5年】 学力向上検定テスト	【全校】 単元末テスト	【全校】 標準学力テスト	【4年】 H26「基礎・基本」	【全校】 学年末テスト
目標値	80.0%		80.0%	80.0%	75.0%	70.0%	80.0%
実施後数値							

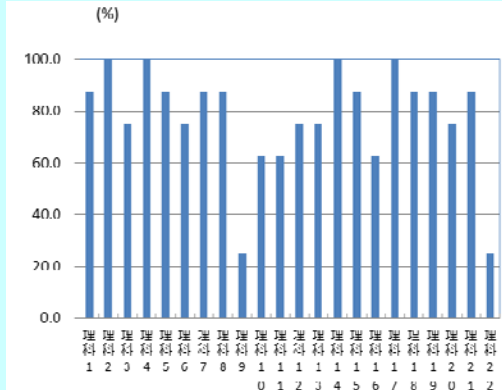
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	【全校】 算数検定テスト		【5年】 学力向上検定テスト	【全校】 単元末テスト	【全校】 標準学力テスト	【4年】 H26「基礎・基本」	【全校】 学年末テスト
目標値	80.0%		80.0%	80.0%	75.0%	70.0%	80.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 77.8%, 県 70.6%)

領域別平均通過率



設問1の平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

理科の結果において、タイプⅠは79.1%、タイプⅡは65.6%の通過率だった。この結果から、基礎的・基本的な内容についてはおおむね定着が図られていると考えられる。しかし、「生命」においては、温度計のはかり方や季節ごとの動植物の成長・活動の様子など、基礎的な内容理解に課題が見られる。また、実験の結果は理解できているが、その学びが実際の生活と結びついていないという課題もある。

重点課題

【課題1】「生命」 温度の正しいはかり方

- 温度計の使い方や読み方、書き方を理解し、0度以下の温度を正しくはかること (通過率 25.0%)

【課題2】「物質」 金属の温度変化と生活との関連

- 金属の温度変化による体積変化を生活の中の現象に関連させて考え、説明すること (通過率 25.0%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

- 温度計の使い方を授業の中で復習する。特に、0度以下の温度をはかる際には、0から下に数えていくことや、読んだり書いたりすることが正しく理解できているか、ミニテストを行ったり、日常的に温度をはからせたりして定着を図る。

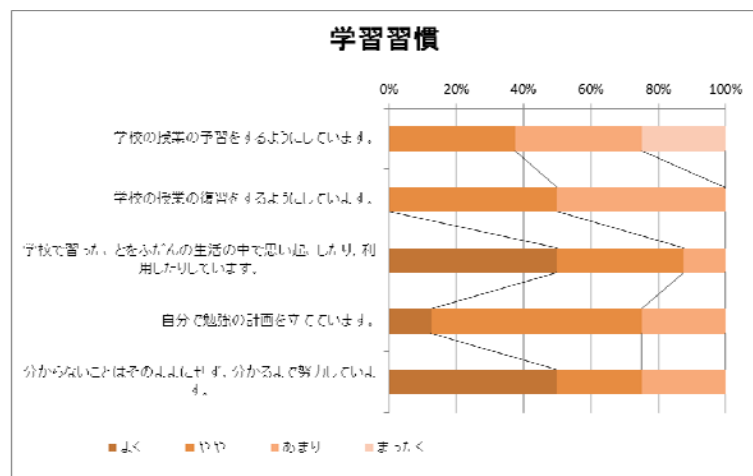
【課題2】

- 実験や観察を行う際に、既習事項を用い、自分の経験や生活と結び付けて予想させるようにする。また、結果を分析したり、解釈したりしたことを筋道立ててノートにまとめる学習活動を継続する。その際には、指導者がノートへの書き方や話型を具体的に示す。
- 理科で学習したことが、実際の生活の中で生かされていることを意識的に指導する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	[5年] H26年「基礎・基本」		[5年] フォローアップテスト	単元末テスト	標準学力テスト	[4年] H26年「基礎・基本」	学年末テスト
目標値	80.0%		80.0%	80.0%	75.0%	70.0%	80.0%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	[5年] H26年「基礎・基本」		[5年] フォローアップテスト	単元末テスト	標準学力テスト	[4年] H26年「基礎・基本」	学年末テスト
目標値	80.0%		80.0%	80.0%	75.0%	70.0%	80.0%
実施後数値							

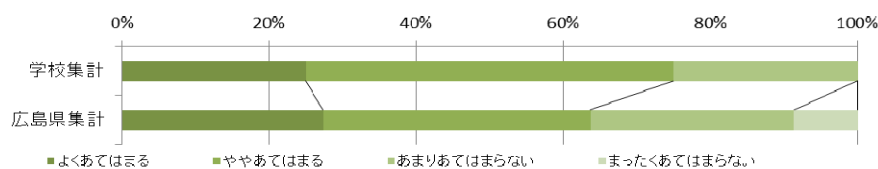
(1) 生活・学習



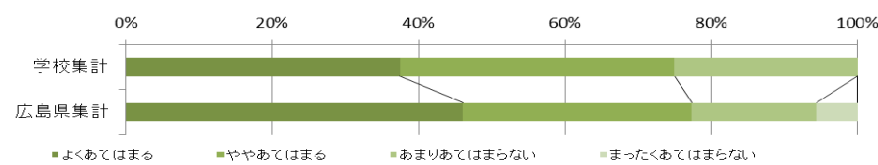
児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
<b>学習習慣</b> ・学校の授業の予習をするようにしています。あまりしていない (37.5%) 全くしていない (25.0%) ・学校の授業の復習をするようにしています。あまりしていない (50%) 全くしていない (0%)	授業と関連性のある家庭学習に取り組ませ、復習の定着を図る。また、次時の予告を示し、手順を明らかにして予習を促す。	全	80%	児童アンケート 児童ノート点検	11月 2月		

(2) 教科

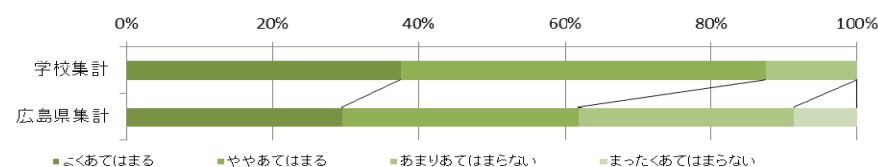
国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。



算数の授業で学んだことを、ふだんの生活の中で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



理科の授業の中では、自分の考えを周りの人に説明したり発表したりしています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	国語の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。(75.0%)	指導者が授業の時間配分に留意し、本時の学習を振り返る時間を確保する。考えたことや分かったことなどをノートに書かせ、ノート点検をする。	全	85%	児童アンケート 児童ノート点検	11月 2月		
算数	算数の授業で学んだことを、ふだんの生活の中で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。(75.0%)	低学年から、生活場面と結びつけた授業を意識的に行う。その考え方や経験を繰り返すことで、その後の学習に活用させる。	全	80%	児童アンケート 児童ノート点検	11月 2月		
理科	理科の授業の中では、自分の考えを周りの人に説明したり発表したりしています。(87.5%)	仮説・考察・結論・振り返りの場面で、自分の考えや意見をノートに書かせる。その後、友達に説明したり発表したりする場を確保し、表現をさせるようにする。	3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	90%	児童アンケート 児童ノート点検	11月 2月		